

# 麦の郷

## 通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから  
生み出され、住民の手によって育てられる

October 2017

ソーシャルファームビネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 フ・テール/けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637  
〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



立命館大学生との交流合宿  
ハートフルハウス創 9.18(月)～20(水)



くろしお作業所 分場  
淡路島・鳴門旅行 9.25(月)-26(火)



ナイスハート基金  
ふれあいのスポーツ広場 10.18(水)



### 私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



きょうざれん

## 第40回全国大会 in 北海道 + 浦河べてるの家見学

初めてきょうざれん全国大会と浦河べてるの家の視察研修に参加させてもらいました。

33年前に設立されたべてるの家は、精神障害等を抱えた人たちの地域活動拠点であり、生活・働く場・ケアの3つの要素をもつ共同体です。病気があっても地域で暮らせる町づくりをめざし、地域の特産品を生かした商売や病気体験の発信などを行っています。

べてるにはユニークな理念がいくつもありません。その中でも私が印象的だったのは「問題ができればほどそれは予定通り、それで順調」です。それは、幻聴さんやもうひとりの自分との付き合い等で毎日問題が山積みであっても、ひきこもったり、爆発したり、逃亡したりする「病気に逃げ」のではなく、具体的な悩みや苦勞と向き合っ



て、仲間に関心を持ち、共有していることで「苦勞を取り戻す」

「生きる苦勞を大切にすると考えるのです。苦勞なんて避けたいし、ない方がいいと思うのに「生きていて社会や人と繋がっているから苦勞する。それは幸せなことかもしれない」と感じさせられたことは大きな収穫でした。

今年のきょうざれん大会は40年の節目を迎える大会でした。藤井克徳専務理事による基調報告では、きょうざれんの運動は、刻々と変化していく社会情勢を的確に捉え、問題を明らかにし、それに対する働きかけを示し、人々が集い団結を固め、その後の発展に向けてぶれずに続けられてきたということ学びました。また、今大会のテーマである「あたりまえに働きえらべるくらしを」は、これまでの労働権保障の運動から、権利保障の運動へとさらに前進させる意味が込められていることも知りました。運動には必ず原点となる精神があります。きょうざれんや麦の郷の原点は「無いならつくろう」とあり、そこには当事者を真ん中に据え、人権を守るために実践・経営・運動を柱に活動が続けられてきたのだと実感しました。

入門講座では、何も無いところから願いを力



に作業所づくり運動が始まり、多くの力が合わさって今の制度をつくり、権利を守ってき

たことを学びました。また「マイノリティな人々の人権が守られてこそ、全ての人々の人権が守られる」という言葉は、麦の郷の新人研修でも心に残っている言葉でもあり、思いを共に歩んできたことに誇りを感じました。

すべての人が憲法25条で保障されている「健康で文化的な最低限度の生活」が実現されるように、私も主体性を持ち、歴史を学び、ぶれずに運動の前進の力になりたいと強く思いました。

(紀の川生活支援センター 石橋由季子)

## 京都水族館

### 合同しゅりーしょん

10月14日、和歌山生活支援センターと六星舎合同で京都水族館に行ってきました。六星舎は、初のレクリエーション！当日の天候は2、3日



前から雨の予報で、なかまも作業より天気が気になりソワソワ状態?!誰が雨男?雨女?と言いつながりも楽しみでウキウキしていました。

当日は福祉バスとハイエースの2台で京都に向かいました。はじめは初顔合わせのなかまもいて緊張していましたが、自己紹介をしカラオケを楽しみ皆いい笑顔。六星舎の(視覚障がいなかま)も皆の声を聞き、初めて会うなかまの名前を覚えようとしっかり耳を傾けていました。

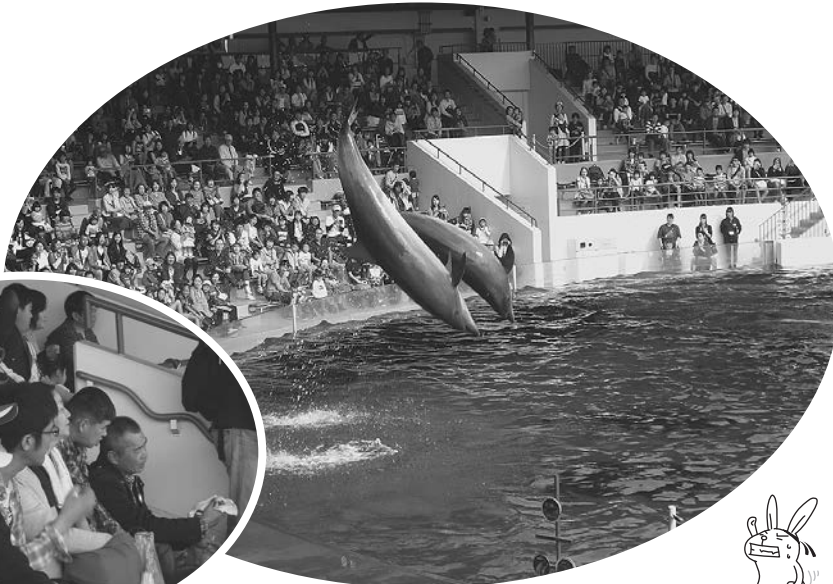
京都に着き、まずは腹ごしらえ:と「きょうと和み館」で秋の特別メニュー「懐石料理をいただきます」。懐石料理Ⅱ和室?正座?と思いきや、大正時代の銀行を改装した洋館?はたまたbarのような空間で、ハロウィンムード一色の店内。初めて懐石料理を食べたというなかまは、「京都の味って美味しくてやさしいね」と言っていました。

食事後、パラパラと雨が降ってきましたが、徒歩組とハイエース組に分かれ、京都水族館に行きました。京都水族館では、皆それぞれ自分の見たいゾーンに立ち止まりかぶりつき。「チンアナゴ、かわいかったあ」、「オオサンショウウオ、思ったより大きかった」というなかま、くらのげの動きを追いかけるなかま、お土産を必死に選ぶなかま。イルカショーに感動したなかまやイルカライブを音で楽しんだなかま達が、帰りのバスの駐車場までの道のりを興奮冷めやらぬ様子で話してくれました。なかま同士の親交を深めると同時に楽しさの共有もいっぱいできました。

初の合同レク、なかまの感想をきいてみると:「バスに乗っている時間は長かったけど、楽しかった♪」「カラオケの選曲、渋かったよね(笑)」「水族館、いけて良かった♥」と大好評♪

帰ってきたばかりですが、もう次はどこへ行くのか楽しみにしているそうです♪

(六星舎 大畑早織)



## \*むぎ・わくわくレポート\*

私は職場実習の場面に同席していました。本人はB型作業所へ就職したいと思っており、実習を行っていました。

食品製造の作業を行っているときに、どうしてもマスクをすることができませんでした。側に居た支援員がマスクを外さないで、とすぐに注意をしましたが、本人のこだわりから、どうしても注意が入りません。そこに通りかかった所長が、本人の思いをまず受け止めてくれ、次に食品を扱う作業所として大事なことを本人に分かりやすく、しかしはつきりと教えてくれました。「マスクをしない」とこと「食品を安全に作る(届ける)」こととどちらが大事かということ、本人に向き合い話してくれました。最後に本人にもその教えは伝わったと思います。

「仕事をする」ということはどういうことなのか、大事にしなければならぬことは何か、「仕事をする私たちの誇り」を本人に教えてくれた場面でした。

作業の現場にいたことが少ない私たち相談員にとって、このような場面に会わせていただけたことが、大変良かったと思われしました。

作業所で製品を作ること以外に、来ているメンバーに対してどう働きかけ、その結果本人がどう変わっていくか、を見させていただいた貴重な場面であったと思います。

(サポートセンター 麦の郷 川村ゆり)

2017年度

## わされん職員研修会に 参加して

10月7日から8日にかけて、国民宿舍紀州路みなべで2017年度わされん職員研修会が行われました。

初日の全体講演ではきょうされん事務局次長の坂下共氏から、「全国情勢」をテーマに障害分野で起こっている問題について講演していただきました。全体講演のあとはテーマ別に分かれて研修を受け、私は「対人援助職のメンタルヘルスについて」というテーマの研修に参加しました。和歌山市保健所の松岡信一郎氏から講演していただき、グループワークを通じてどのようにストレスを対処するか議論しました。2日目は和歌山大学経済学部准教授の金川めぐみ氏から「今後の社会保障の行方と共生社会を考える」をテーマに日本、世界の歴史と社会保障の歴史を比較した上で、現在の社会保障がどのようになっているかを講演していただきました。わされん職員研修会の一番の醍醐味は何と云っても他の事業所との交流です。ただ知識をつむためだけなら、一人で本を読めばいいわけであり、違う視野を持つ他の事業所の人たちと交流することがわされん職員研修会に出る一番の醍醐味だと思います。麦の郷以外の事業所の人たちと一緒に講演を聞き、その話をグループワークや講演時間外で議論することによって、

自分の視野を広げるだけではなく、自分の勤める麦の郷を客観視することもできました。これは普段麦の郷にいるだけでは得られないような経験であり、自身にとっても有意義な研修会になりました。ありがとうございました。

(ソーシャルファームピネル 勝山陽太)

## 赤い羽根共同募金会運動

### 70周年 感謝の集い in 和歌山に参加して

去る10月1日にガーデンパーク和歌山野外ステージにて表題のイベントに参加して来ました。共同募金会様より助成を受けた麦の郷の各事業所より、様々な商品をラインナップし販売してきました。

野外ステージは店舗等の通路から少し間口の狭い入り口を入った所にある為、通行されている全ての方々に商品を見てもらう事ができず残念な結果でしたが、今回のイベントとしては、助成頂いた商品についてありがたいメッセージを添えたカラーのパネルを



掲示したりと、麦の郷ブースとして盛り上げる協力の役目は果たせたように思います。

その他、麦の郷印刷施設長の長谷さんが、テレビ和歌山の取材を受け、点字プリンター助成のお礼コメント等『テレわか』番組で放送されました。

イベントセレモニーでは、市長をはじめ各役員来賓の方々の挨拶や、つわぶき会の仲間の方々ピュアハート&寺町ストリートバンドのミニコンサート、ご当地アイドルファン×ファンのコンサートがあり盛り上がりを見せていました。そのステージのトリは麦の郷の『ポズック楽団』。みんな生き生きと、いつものチンドンを披露してくれてイベントをおおいに盛り上げてくれました。ポズック楽団さんは、様々なイベントのオフアアがあり、和歌山県に留まらず、益々ポズック楽団の活躍が期待されるようです。

ファン×ファンのコンサートでは、追っかけの方々の、写真撮りながら、踊りながらの大応援で、ピネルの仲間も思わず一緒に踊る姿にとっても楽しい時間を過ごさせて頂きました。

(事務管理部 中野優子)



今年で5回目の作品展が場所を変え、和歌山市役所1階の市民ギャラリーで「むぎピース仲間のArt作品展」それぞれが、感じる世界」をしました。初めはアート活動に取り組む仲間2名の作品展「ふたり展」(2013年8月)でしたが絵を描くのが大好きな仲間たちが増え現在では20代から60代までの11名が作家として参加し色鉛筆やパステル、ペンなどで描いた絵画20点を展示するまでになりました。

描く課題は自由で身近な人物や植物、空想世界などさまざまで、コーヒーカップや花がたくさん並んだ「かぞえてごらん」、なぞった手形に独自の感性で彩色した「幸せの手づかみ」など、楽しい気持ちで伝わるような作品たちがばかりでした。

最初は使う色が黒のみだったのが、どんどん色彩豊かになったメンバーもおり作品展ではそれぞれの自信につながり、線の太さや強さに表現できるようになってきました。

むぎピースは個性あふれるメンバーが日々、手を動かし笑顔と会話がある活動空間を追求していきます。

(山本直美)

## 第5回「むぎピース仲間のArt作品展」

### それぞれが、感じる世界」開催

9月4日～12日 和歌山市役所1階の市民ギャラリー



## 夏の終わりの淡路プール合宿

はるま共同作業所 結い

9月7日～8日の2日間、自立訓練事業「結い」では、淡路島でプール合宿を行いました。自然や四季のすばらしさを感じられる楽しい行事をみんなで体験することを積極的にとりいれて活動している「結い」ですが、今年の水泳ではなかなかお天気に恵まれず、夏の初めの川湯温泉での川遊びではとうとう泳ぐことが出来ずじまいになっていました。田植えが終わり、古代米の豊かな稲の緑も見事な丸山千枚田の景色をゆっくり見て歩くことはできたものの、泳ぐことが大好きな男性陣も多い「結い」なので、このまま夏が終わるのもしのびなく、のんびりできる夏の終わりに再度企画をしたのです。

今回はちょっと反省から学び、雨でも泳げるようにプール付きの宿泊施設にしておきました。行きの車では雷雨にあったものの着いた頃にはお天気も良くなり、すぐ目の前が大海岸のビーチなのでプールの前に海水浴も楽しむことができました。全員でライフジャケットを着用し体操をした後はもう大騒ぎで「ザブーン！ザブーン！」とみんな海に入りました。気持ちよさそうに静かに「ぶか～ぶか～」と浮く人も。いつもは女性スタッフの結いですが、この日は男性スタッフの助けをかりて出かけることができ、普段はすることが出来ないダイナミックな遊び方にみんな



本当に楽しそうで、いつもは見るのではない表情をしている男性陣のなかまたちを見ていて本当にうれしく、また必要なことなのだなあとあらためて教えてもらった気持ちです。明石海峡大橋を渡ったり大鳴門橋を歩いてうず潮を見たり、帰りには徳島からフェリーにも乗ったりとみんなでの初めての体験も多い、すべりこみセーフの楽しい夏の体験でした。(浦口郁子)

## デイキャンプに行ってみよう！

和の杜

10月6日、毎年恒例のデイキャンプに、花園のこむぎの郷まで行ってきました。半月前から昼食には何を食いたい、何をして遊びたいかをなかま達で話し合い、前日までに買い出しや調理を済ませて当日を迎えました。週間予報では中々の悪天候との予報だったので諦めていたのですが、みんなの日頃の行いがいいのかなんとか天気もよってくれました。

山道に揺られてこむぎの郷に到着すると早速お待ちかねのお昼ごはん！各テーブルで焼肉を焼きながら、前ではまるで屋台のように3台のホットプレートを使って餃子や手羽先が焼かれ、店長(大中さん)が焼けたことを告げるとみんな群がってお腹いっぱいになるまで食べまくり、その後は各自自由に過ごしました。2部屋に分かれて3時間カラオケを熱唱する人、客間をスクリーンにした特設映画館で映画鑑賞をする人、室内を探検する人、ピアノを弾く人、少しの間だけでしたが外での遊びや、指まで食べられないかビクビクしながらヤギのメイチャ

んへのエサやりなども楽しむことができました。「食欲の秋」・「スポーツの秋」・「読書の秋」・「行楽の秋」を日中という限られた時間の中に詰め込んで過ごすことができました。

和の杜のみんなもリフレッシュしたことで、更に仕事に取り組んでくれるかと思いきや、次は11月の旅行の話で持ちきりですが?!今後も仕事にも遊びにも真面目に取り組んでいきたいと思えます。(湊翔平)



## 出会いに感謝！

心温まる素敵な2日間

はるま共同作業所

9月7日、朝からなかまのみんなは、ソワソワ…。玄関の扉が開いて、「こんにちは～！」とお客様がやってきて、みんなの顔に満面の笑みが広がりました！沖繩からお客様がくるしお作業所に来てくれたのです。その方は、沖繩で引きこもり支援をされている、NPO法人エスパーの平良節子さんです。平良さんとは、今年6月にくるしお作業所エゴ班のなかまの旅行で沖繩へ行った際、交流させていただいてお世話になりました。平良さんと久しぶりに再会したなかま達は「おーい(久しぶり)」、「抱き合って再会を喜ぶ姿がみられ、私までホッとした気持ちにさせてもらいました。

今回平良さんがなかに会いに来てくれたの

には理由があります。沖縄旅行へ行く前に、ある方の紹介で、平良さんと出会うことができました。紹介してくれたのは、かつらぎ町にある森下農園の森下哲士さんです。森下さんとは、ご縁もあり毎年ブドウ狩りやピザを一緒に作ったりして交流させてもらっています。その森下さんから「沖縄に知り合いがいるので紹介してあげる」という一言から平良さんとの縁に繋がりました。そして、沖縄での交流会の時、平良さんから「今度は、私が和歌山に行きます。ブドウ狩りを一緒にしていいですか？」の一言から今回の再会となりました。

1日目は、これもまたご縁のある社会福祉法人かがやき神戸ぐりいとクラウンパフォーマンスと一緒に見せてもらいました。なかまたちもここ数年何度も交流があり、パフォーマンスを見せてもらっているのです。一緒に踊り笑顔あふれる交流会となりました。2日目には、森下農園さんで約束のブドウ狩り！毎年食べているととてもおいしいブドウにも、これまた笑顔があふれていました。

点と点が繋がり、縁になる。縁が深まれば絆となる。そういう事を経験させてもらった2日間でした。繋がり・縁は、なかま達皆の財産です。これからもこの縁を大切にし、また他の方たちのご縁も大切にし、さらに繋がりが広がり、色々な方との縁が広がり、絆を深めていけるようにしていきたいと思いました。

(神田宗忠)



## 立命館大学生との交流合宿

ハートフルハウス創

去る9月18日(月)〜20日(水)、立命館大学山本ゼミ生との交流合宿を花園こむぎの郷で行いました。

山本ゼミ生との交流合宿は2013年から続いており、今年はゼミ生の参加が16名あり、創のメンバー名を含めると例年になく大人数での交流合宿になりました。

今年の合宿のテーマは「共有」。私たちがいつも何気なく使っている言葉ですが、今回この言葉について、ゲームや交流会、議論の場を通してみんなできっと考えてみました。

「共有」と口で言うのは簡単ですが、例えば、考えや意見、時間、場所、趣味、経験、価値観、感情、言葉、理念、世界…。私たちはいろいろな場面で本当にたくさんの「共有」を意識的、あるいは無意識的に行っています。中でも富の共有、時空の共有という考え方が出されたときは正直難しく、つなりました。

創にとつてこの合宿でも一つ大きな目的としてあったのが演劇です。創の演劇部は今年発足したばかりの出来立てホヤホヤで、今回この合宿のために一生懸命練習してきました。



「劇団創(はじめ)」として披露した演目「JOINT」は、「共有」をテーマに一人のメンバーが脚本を書き、それを演劇部メンバー全員で練り上げたオリジナル作品です。メンバーの熱のこもった演技に、客席からの拍手や歓声が鳴りやみませんでした。演じたメンバーは感無量な様子で、その表情から達成感と大きな自信を得た様に感じました。

ゼミ生も創のメンバーも合宿が始まったときはお互い緊張気味でぎこちなかったのですが、自己紹介ゲームや食材争奪ゲームによる、同じ目的を目指す事により生まれる一体感により一気に心の距離が縮まりました。そして議論の場や夜の交流での自由な発言とそれをあたたかく受け入れてくれる雰囲気により、メンバーはほとんど自分をさらけ出していき、本人たちも気づかなかつた今までは違う自分を実感しているようでした。終盤のキャンプファイヤーで語り合い結ばれた強い絆を感じた時間は、まさしく「共有」の持つ、人の心と心をつなげる力を全員が実感した瞬間だったのではないのでしょうか。

この合宿を通してメンバー一人ひとり本当に大きな変化、成長を感じました。あるメンバーの感想です。「たくさんの人の価値観や考えに触れ、いい意味で自分の考えや価値観を壊す事ができれば自分の枠が広がるのではないか」。これは本当に大きな「気づき」だなあと、合宿の重要性を痛感しました。

2泊3日という短期間の合宿でしたが、私たちスタッフにとつてもメンバーにとつてもかけがえのないとても貴重な時間を「共有」できた交流合宿だったのではないかと思います。

(松岡崇治)

### 「農業」と「福祉」が つながって、 日本を元気に!

「農業」と「福祉」が  
つながって、  
日本を元気に!

**第一号**  
根来寺ノウフクマルシェ  
**ノウフクマルシェ**

2017年11月25日(土) 10:00~16:00  
ところ: 新義真言宗 総本山 根来寺  
岩出市根来2286

ノウフクマルシェは「農業」と「福祉」の連携によってできた生鮮野菜や加工品を販売します。

マルシェ開催により障害者の工賃向上を図り、障害者の農業分野における就労に対する社会一般の人々の理解を一段深め、「農福連携」の認知・普及啓発を図ります。

主催  
和歌山県障害福祉課  
設営  
一般社団法人 協働  
和歌山市北出島一丁目2番18号  
TEL:073-468-7568 FAX:073-435-7735

## 和歌山 高次脳機能障害 リハビリテーション講習会

「明日へ、あきらめない」

「間違えてきた障害」とも書かれ、外見上からはわかりにくい「生活のしづらさ」を持っている高次脳機能障害についてわかりやすく解説。そのリハビリテーションについて学び実際に体験するとはいかかを一緒に考えます。また障害により失ったものはすべて回復か?の疑問を否定。ひかりはじめた世界で活躍されている当事者ならではの語り聞かれます。国は社会的弱者のケアフォーラムを推進されていますが、あなたも当事者になりませんか?

**日時** 2017年11月23日(木・祝) 13:30~17:00  
(受付13:00から)

**場所** 和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 3F多目的ホール  
和歌山市毛見1437-218 TEL:073-445-7314(障害者支援課)

**手話通訳・要約筆記あり** **参加費無料**

**「高次脳機能障害の理解とリハビリテーション」**  
【講師】西林 宏起 氏(講師)

**トークとミニライブ ~GOMAの魅力に迫る!~**  
「失った記憶、ひかりはじめた僕の世界」  
【講師】GOMA 君  
【講師】内田 真高 氏

**家族交流会**

お問い合わせ・お申し込み先  
主催:和歌山高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会  
事務局:(ワークショッププラット)和歌山市中之島1809番地  
TEL/FAX:073-423-5838 E-mail:wfat@joyoon.ne.jp

**定員150名(先着順)** 申し込み締切日 11月20日(月)

助成:一般社団法人 日本障害保険協会 後援:和歌山県 和歌山市

## ふれあい 人権フェスタ 2017

170名以上の団体や  
企業が参加!

入場無料  
**11/11 土 SAT**  
10:00 ▶▶▶ 16:00  
和歌山ビッグホール

「弱者を絆にへての30年の歩みから」

**わかやまここのフェスタ2017**  
和歌山県精神保健福祉センター  
TEL:073-435-5194

**りいぶるフェスタ2017**  
和歌山県男女共同参画センター  
TEL:073-435-5245

※都合により内容が変更する場合があります。ご来場の際は、公共交通機関をご利用下さい。ステージイベントには、手話通訳、要約筆記があります。

【主催】和歌山県、(公財)和歌山県人権啓発センター、和歌山県人権啓発活動ネットワーク協議会  
【後援】和歌山県教育委員会、和歌山県市長会、和歌山県町村会

お問い合わせ 〒640-8119 和歌山市幸平2-2-2 公益財団法人 和歌山県人権啓発センター  
TEL:073-435-5420 FAX:073-435-5421 mail@w-jinken.jp http://w-jinken.jp/

### 年賀状印刷承ります

~麦の郷印刷~

平成30年(2018年)

### 年賀状印刷

ご注文受付中!!

ご注文はFAXでもOK!

TEL:073-464-3707  
FAX:073-464-3708

### 夢を語り合える書籍を

~麦の郷出版設立~

笑顔と元気麦の郷流  
「おもしろい本」

Amazonでも発売中!  
(1200円+税)

### 【 『人生フルーツ』 上映会@山崎邸 】

- 上映日:2017年11月12日(日)
- 時間:12:30~15:30~18:30~
- 上映料金:各回1500円(ドリンク代込み)
- 会場:山崎邸内 創-Hajime-cafe  
(和歌山県紀の川市粉河 853-3)
- 主催・お問合せ・申込:紀の川映画研究会「fruits」(商工観光課内)
- 共催:社会福祉法人一麦会 麦の郷 ハートフルハウス創
- 後援:(一社)紀の川フルーツ・ツーリズム

### 麦の郷 40周年記念冊子「つむぐ」



麦の郷 40周年記念CD  
「ねがい ありがとう」



各500円(税込)  
麦の郷本部事務所に  
TEL 474-2466  
**絶賛発売中!!**



くろしお作業所  
鈴木 重徳

くろしお作業所に入職して約4年になります。くろしお作業所では、たんぼぼ班とエコ班の2つの班があり、自分は、たんぼぼ班の職員として日々、なかまの方々と交流したり学んだりして、お互いに助け合ったり、手伝い合ったりしています。なかまが難しそうところは手伝って、自分がわからないところは教えてもらって、くろしおに来てからずっと助かってるし感謝しています。職員もなかまも笑顔で楽しい職場で『ありがとう』の言葉が増えました。最近では新たに入所されたなかまの事を知ろうと、アプローチをかけたり話し合ったりしています。自分がくろしおに来てから新しく入所されたなかまは少なく、これからどう

変わっていくのか楽しみでありこれからどうアプローチをしていくのが課題かなと考えています。楽しい職場ですが奥が深い職場です。自分を支えてくださる皆様方、いつもありがとうございます。ここまで自分を変えることができたのは皆様のおかげであり、それを支えにこれからも頑張っていきたいと思います。